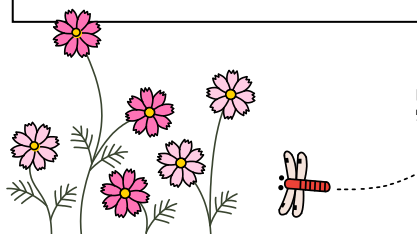


いぶき



実りの秋を迎えて

校長 高橋 いずみ

澄み切った青い空がどこまでも広がり、美しい秋の陽差しが降り注ぐ過ごしやすい季節になりました。今日もグラウンドでは、日の光を体いっぱい浴びながら楽しそうに子どもたちが遊んでいます。学習するにも運動するにもとてもよい季節です。

さて、学校では、1年間のちょうど折り返し地点を迎えています。新しい学年、新しい勉強に戸惑いを見せていた子どもたちも、今はすっかりそれぞれの学年らしい姿になりました。特に、9月15日に行った福島潟アドベンチャーでは、6年生がリーダーとなり、縦割り班で力を合わせて活動し、よい思い出を作ることができました。1学期は、学校をいつも温かく見守ってくださる保護者の皆様、地域の皆様のおかげで大きな事故やけがもなく子どもたちは、元気に過ごすことができました。ありがとうございました。

そして今、2学期が始まり、子どもたちは新たな目標を立て、生き生きと学校生活を送っています。できるようになりたい、分かるようになりたい、よりよい自分になりたいという気持ちに満ちあふれ、一生懸命です。全職員でその気持ちをしっかりと受け止め、子どもたちに学力をつけるために一層の努力をしていきたいと思っております。

これからの時代を生きるために必要な学力は、知識を得る、何かができるようになることで終わりではありません。解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むことだけでは不十分です。初めて出会う問題についても自ら問いを立て、その解決を目指し他者と協働していくこと、論理的に考えていくことが大切になります。葛塚小学校で学んだ子どもたちが、将来自信をもって生きていくためには、この新しく求められる学力の定着を目指して学校が変わっていかなければなりません。当校では、これから必要とされる学力を育むために、全職員がベクトルをそろえ、子どもたちの学力実態を分析し、互いの授業について意見交換したり、他校の実践に学んだりしながら授業改善を進めています。そして、10年に一度の大きな変革となる平成32年度の新しい学習指導要領の全面実施に向けて準備を整えていきます。この2学期では、全職員で先を見据えたよりよい授業づくりを目指して研修と実践を積み重ねて参ります。保護者・地域の皆様からは、大きな変化の時であるということについてのご理解とこれまでと変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

児童アンケート・保護者アンケートの結果の考察

<学力の向上>

1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない
3 まあまああてはまる 4 とてもよくあてはまる

児 童	1	2	3	4
	否定的回答		肯定的回答	
学校での学習がよく分かる。	4人	35人	242人	367人
	6%		94%	
学校での学習で今までより、できるようになったり、分かるようになったりした。	2人	16人	133人	497人
	3%		97%	
7つのプレート「見通し(技)」を使って、学習の課題が解決できるようになった。	10人	59人	230人	349人
	11%		89%	
授業では、進んでペア対話をしている。	7人	55人	198人	388人
	10%		90%	
ペアやみんなで話し合ったりして、友達や自分の考えの似ているところや違っているところを気付けようになった。	9人	33人	211人	395人
	6%		94%	
学年×10分の家庭学習を、ほとんど毎日やっている。	14人	45人	130人	458人
	9%		91%	

保護者	1	2	3	4
	否定的回答		肯定的回答	
学校での学習をよく理解していると思う。	6人	61人	333人	189人
	11%		89%	
学校での学習で、できるようになったり分かるようになったりしたと思う。	1人	25人	215人	348人
	4%		96%	
学校での学習に、意欲的に取り組んでいると思う。	8人	69人	270人	242人
	13%		87%	
学校は、自ら課題を解決し、自分の考えを伝える子どもを育てるための授業づくりに努めていると思う。	1人	40人	338人	207人
	7%		93%	
家では、学年×10分の家庭学習をほとんど毎日やっている。	20人	70人	166人	333人
	15%		85%	

どの項目も肯定的な評価がほぼ90%と高い結果で、日々の教育活動の一つ一つが、成果に結び付いている面がうかがえました。しかし、否定的な回答が若干名いることは見過ごせません。

今後も、自ら課題を解決し自分の考えを伝えたり、自ら課題を見付け話し合いを通して解決したりする子どもの姿を目指していきます。そのために、優れた学習課題とまとめを核とした問題解決型の授業を継続していくとともに、より深い学びになるように話し合い活動を充実していきます。

また、家庭学習については、定着が図られてきているものの、未だ肯定的評価が100%となっておりません。葛塚小では、全ての子どもが「学校から帰ったら、自ら時間を決めて学習をする」この習慣化を目指しています。さらに、学習する内容も、授業とつながる家庭学習にしていくと、学校と家庭の学びが連続し、学習内容が確実に定着します。授業の振り返りをしたり、授業ノートをもう一度書いたりするなどの復習や、教科書を読んだり分からない言葉の意味を調べたりするなどの予習が有効だと言われています。保護者の皆様には、家庭学習の面でもご協力をお願いいたします。(研究主任 高橋 淳)

○優れた学習課題とまとめを核とした問題解決型の授業を継続するとともに、より深い学びになるよう話し合い活動を充実させます。取組の様子は、各学級だよりをご覧ください。

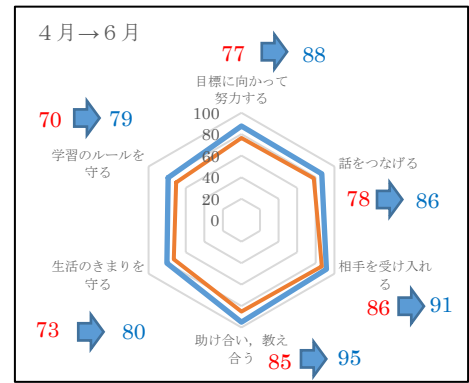
○「学年×10分の家庭学習」が身に付かせるとともに、授業とつながる家庭学習になるよう、保護者と学校と連携して取り組みます。

<心の教育>

今年度もレーダーチャート(右図)を使った学級力向上の話し合いを通して、「自ら課題を見付け、話し合いを通して解決する子ども」の育成を目指しています。昨年度の取組を見直し、取組み方を変更しました。

- ① 評価項目を八つから六つにしました。
 - ② 話し合いを1か月に1回から2か月に1回にしました。
- 次は、アンケートの結果です。

- 1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない
3 まあまああてはまる 4 とてもよくあてはまる



児童	1	2	3	4
	否定的回答		肯定的回答	
進んであいさつをしている	18人	62人	199人	369人
	12%		88%	
係や当番などの仕事をして、自分はみんなのためにやり、クラスの役に立っている	9人	41人	235人	363人
	8%		92%	
クラスの話合いで決めたことに注意して生活している	7人	47人	237人	356人
	8%		92%	
きまりやマナーを守って生活している	7人	41人	187人	413人
	7%		93%	
いじめについて心配や不安が少なく楽しく生活している	20人	50人	127人	451人
	11%		89%	

保護者	1	2	3	4
	否定的回答		肯定的回答	
学校を楽しんでいると感じている	1人	28人	202人	358人
	5%		95%	
思いやりと親切な気持ちをもって行動している	2人	40人	307人	240人
	7%		93%	
進んで挨拶をしている	18人	133人	299人	139人
	26%		74%	
家庭や地域の中で決まりやマナーを守って生活している	6人	51人	334人	198人
	10%		90%	
学校は普段からいじめの防出に努めている	2人	39人	332人	213人
	7%		93%	

児童アンケートでは5つの項目のうち三つで、保護者アンケートでは五つの項目のうち四つの項目において、肯定的評価が90%以上と高い結果が出ました。児童アンケートの「係や当番などの仕事をして、自分はみんなのためになり、クラスの役に立っている」「クラスの話合いで決めたことに注意して生活している」「決まりやマナーを守って生活している」、保護者アンケートの「家庭や地域の中で決まりやマナーを守って生活している」と思います。高い数値が出たことから、日々の学級力向上の取組が実を結んでいることを感じました。

しかし、前年度と同様に保護者アンケートで唯一低かった「進んで挨拶をしている」の項目は、80%を切りました。一昨年度からの変化を見ると、

73% (H27前期) → 70% (H27後期) → 80% (H28前期) → 75% (H28後期) → 74% (H29前期)

となっています。学校では挨拶の大切さについても一度見直し、挨拶が身に付くように指導していきます。家庭でも、声掛けをよろしくお願いいたします。

また、いじめに関する項目を使って、担任が相談に乗るようにしました。いつ、どこで起こるか分からないいじめに、素早く対応していきます。今後も、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

(生活指導主任 松本 和夫)

〈特別支援教育〉ユニバーサルデザインを取り入れた学級づくり

教室の環境整備に取り組んでいます

配慮を要する子どもたちには、刺激の少ない整理整頓された環境をつくることが大切だと言われています。どの子どもたちも学習しやすいように、今年度は夏休みまでにまず、教室の環境整備をすることからスタートしました。特に教室の前面は掲示物を貼らず、教育目標と1日の流れを知らせるホワイトボードのみにすることを全校で統一しました。

全校で取り組んでいる下の葛小UDスタンダード10の表の⑤、⑥、⑦、⑧、⑨が教室の環境整備に関する項目です。夏休み前に職員に取ったアンケートでは、どのクラスでも、「葛小UDスタンダード10の8割以上の項目に取り組むことができた」という回答結果でした。

⑨の「椅子を入れる」は、教室が整然として配慮の必要な子の気持ちを落ち着かせるだけでなく、片付けられない子の「使ったら、元の状態に戻す。」という日々のトレーニングになります。「家でなかなか学習に身が入らない。」というおうちの方の声を時々耳にします。もしかしたら、学習への集中を妨げる視覚的な刺激、聴覚的な刺激に反応しているのかもしれませんが。テレビを消すなど、静かな環境づくりはもちろんです。学習する机の回りをまず片付けて、すっきりした中で学習に取り組むなど、刺激の低減は学びやすい環境づくりにとって重要な視点となります。

子供たちにとって学びやすい環境づくりができてきたので、今後は、「子どもたちにとって分かりやすく、学びやすい授業のユニバーサル化についての研修を深めて取り組みます。

平成29年度葛小UDスタンダード10	
①	1時間の流れを明示する。(プレートのボード活用)
②	発問や指示は一時に一事にする。
③	視覚教材を活用する。(ホワイトボード スケッチブック等)
④	学習課題が終わった後にやるべきことを用意し、空白の時間をつくらない。
⑤	教室前面の掲示物は、教育目標(1日の流れ)のみとする。
⑥	授業後、黒板はきれいに消す。
⑦	学習用具やファイル類の置き場所を決め、片付け方を文字や写真で明示する。
⑧	提出物の置き場所を明示する。
⑨	休み時間や教室を空ける時、下校時は、椅子を入れる。
⑩	話し手の方に体を向けて、話を聞かせる。



(特別支援教育部主任 羽田 睦子)

全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

「全国学力・学習状況調査」は、文部科学省が2007年度から、全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施している調査です。葛塚小の6年生が、4月に行った調査の結果をお知らせします。

A問題	確実に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかをみる問題
B問題	基礎的・基本的な知識・技能を活用した書く力や読む力、筋道立てて考える力をみる問題
質問紙調査	学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査

1 葛塚小学校6年生の正答率～全国との比較～

今年度、国語と算数のA・B問題とも葛塚小の正答率が、全国平均を下回りました。

当校は、自ら課題を解決し自分の考えを伝えたり、自ら課題を見付け、話し合いを通して解決したりする子どもの姿を目指しています。そのために、7つのプレートを使った問題解決型の学習過程と対話の2つの取組を行っています。これは、子どもの思考を促し、深い学びにつながるための有効な手立てとなっていて、文部科学省や新潟市教育委員会も推奨している取組です。

「子どもたちは授業で本気で思考しているだろうか」「思考する時間を十分保証しているだろうか」「一人一人の思考が全体で共有することで深い学びになっているだろうか」など、**様々な要因を検討し、日々の授業で生かした授業改善**にこれからも取り組んでいきます。

次に、全国と比べて、特に葛塚小6年生の正答率が高かった問題と、正答率が低かった問題を紹介します（全国と比べて正答率が±5ポイント以上の問題）。

< 正答率が高かった問題 >

国語	A	・タイトルを決める話し合いの内容をどのように報告しているかを捉える (+6.3) ・漢字を正しく書く「対象」(+10.8)「置く」(+10)
算数	A	・資料から、二次元表の合計値に入る数を求める (+7)
	B	・与えられた条件を基に、2枚のカードを選び、適切な式を立て、答えを求める (+6.1)

< 正答率が低かった問題 >

国語	A	・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む (-11.2) ・俳句の情景を捉える (-11.2) ・古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む (-5.1)
	B	・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える (-5.7) ・物語の具体的な叙述を基に、理由を明確にして自分の考えを書く (-11.6)
算数	A	・小数の乗法の問題場面において、二つの数量の関係を数直線に表す (-11.4) ・小数の加法「小数+整数」の計算をする「10.3+4」(-7.1)
	B	・仮の平均を用いた考えでの平均の求め方を、言葉や式を用いて記述する (-10.1)

特に正答率が低かったのは、「理由を明確にして自分の考えをかく」と「二つの数量の関係を数直線に表す」という問題です。ともに、全国と比べて正答率が11%以上、下回っています。自分の考えを述べるのに叙述から根拠を探す活動や、二つの数量の関係を明確にするのに数直線で表す活動は、問題を解決するために必要な「見通し(技)」の場面です。

今年度から、7つの学習過程の一つである「見通し(技)」のプレートを使っています。問題を解決するために、どのような技を使うと解決できそうかを、ペア対話や全体対話で見通しをもたせることを行っています。しかし、この結果から、「叙述から根拠を探す」「数

直線で表す」という技が十分に使いこなせていないことが分かります。どの学年でも、この2つの「見通し（技）」を使いこなしていくことを意識していき、日々の授業で、指導を繰り返していきます。

2 葛塚小学校6年生の家庭学習(月～金曜日)の取組～全国との比較～

家庭学習に関する質問紙調査では、「家で、1時間以上勉強していますか?」「家で、学校の宿題をしていますか?」「家で、学校の授業の予習をしていますか?」「家で、学校の授業の復習をしていますか?」の4つの項目で、「当てはまる」と回答した児童の割合が、全国平均と比べて下回っています。家庭学習は十分行われているとは言えない状況にあります。「学年×10分」以上の家庭学習時間を確実に定着することはもちろん、学習内容にも目を向けなければいけません。

学校便り第186号の巻頭言～家庭学習が変わります～で、家庭学習を進めることに3つの効果(学び続ける力の育成・学力の向上・学習意欲の向上)があること、さらに、予習と復習の大切さについてもお示ししました。また、これまでのドリル中心の家庭学習から、『授業とつながる家庭学習』に変えることで、学力を大きく向上させたという学校もあります。

そこで、葛塚小も、学力向上を目指し、『授業とつながる家庭学習』の取組を推進していきます。右のような一例があります。各学年で取組を検討し、11月から全校で実施していくことにしました。内容の詳細は、後ほどお知らせいたします。

新しい取組で、子どもたちも戸惑う場面があると思いますが、ご家庭でも、お子さんへの励ましや助言をいただければありがたいです。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

【取組の一例】

- (1)見通し(イメージ)をもたせる
家庭学習の作戦タイムの設定
- (2)やる気を引き出す
 - ①適切でタイミングのよい評価
(赤ペンの入れ方、2冊の自学ノートなど)
 - ②自学ノートの展示
- (3)授業とつながる家庭学習のメニュー
 - ①振り返り(7つのプレートの一部を家庭学習で行う)
 - ②授業日記
 - ③再現ノート
 - ④再現作文
 - ⑤教科書の問題をする
 - ⑥教科書を読む、調べる。(予習)